

## 教科の好き嫌いに与える家族と教師の影響

室 雅子（お茶女大・院）

【目的】 学校で習う教科に対する好き嫌いの形成には、教師や授業の影響が重要視されやすいが、日常の家庭生活の中での家族の影響も大きく関わっていると考えられる。本研究では、家族と教師が生徒の教科の好き嫌いにどのように影響を与えているのかを明らかにすることを目的とした。

【方法】 愛知県内の県立高校1年生男女326名（男子158名、女子168名）を対象に本人の各教科（9教科）に対する選好度、本人の教科への選好度に対する家族または教師の影響度とその具体的な影響内容などについて質問紙調査を実施し、分析を行った。調査時期は1993年10月～11月。

【結果】 家族も教師も生徒の教科に対する好き嫌いに影響を与えていたが、両者の影響には次のような違いが見られた。家族の影響は、親・兄弟が直接その教科を教えたり、教科に通ずる趣味を一緒に行うなど、意図的・無意図的を問わず、教科を好きにさせる傾向の方が多く見られた。全体的に女子の方が影響を受けやすかったが、特に男子は父親、女子は母親に影響を受けていた。一方、教師の影響は家族の影響に比べて教科を嫌いにさせる影響が多く見られ、影響も弱かったといえる。教師さえ交代すれば解決する表面的な理由が多く見られ、好きにさせた理由には教え方を、嫌いにさせた理由には教師自身を嫌いなことが挙げられた。また、国立4年制大学への進学率が高い学校の生徒には家族の影響が多く見られ、あまり高くない学校の生徒には教師の影響が多く見られた。